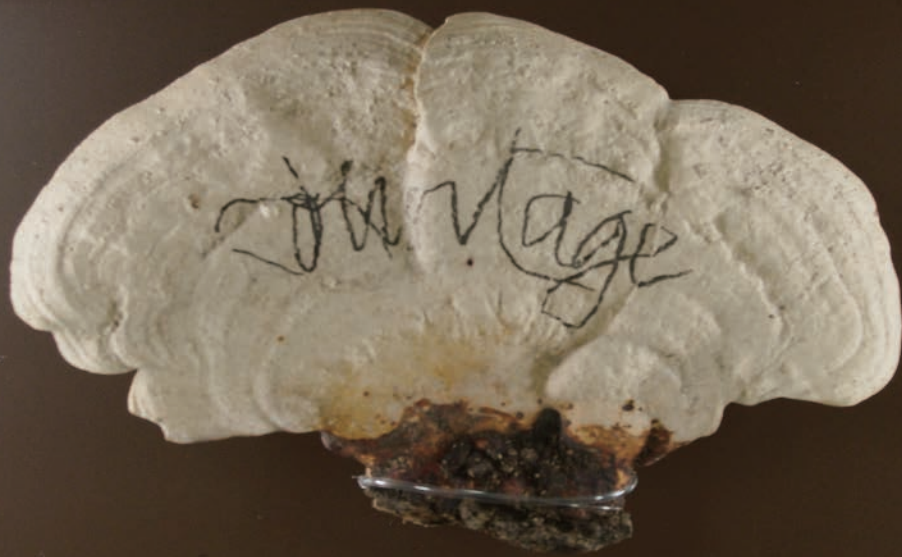


企画展「大きなこ展」



ジョン・ケージのサインの入ったサルノコシカケ（1989年）

JOHN CAGE : MUSHROOM AND MUSIC

きのこに没頭すると、音楽について多くを学べることが出来る。

photo : Jame Klosty

きのこを愛した20世紀の作曲家
ジョン・ケージ コンサート

演奏者

藤島啓子（ピアノ）
中川裕貴（エレクトリック・ベース）
上中あさみ（打楽器）
吹田哲二郎（サウンド）



演奏曲目

Imaginary Landscape No.1 (1939) 心象風景 I
BACCHANALE (1940) バッカスの祭り
In a Landscape (1948) ある風景の中で
4' 33" (1952) 4分33秒
Water Music (1952) 水の音楽
Inlets (1977) インレッツ
Ryoanji for Bass (1984) 龍安寺（ベース版）

日時 2012年 8月26日（日）午後2時～4時

会場 鳥取県立博物館2階講堂

定員 250名 申込 不要

無料でお聴きいただけます。

■JR鳥取駅からバスで

- (1) 100円バス「くる梨」青コース「⑤ 仁風園・県立博物館」下車すぐ
 - (2) ループ線「獅子Aコース」④鳥取城跡」下車すぐ
 - (3) 砂丘、湖山、賀露方面行「西町」下車、400m
 - (4) 市内回り岩倉行・中河原方面「わらべ館前」下車、600m
- JR鳥取駅からタクシーで約10分
■当館駐車場21台駐車可能
(なるべく公共交通機関をご利用ください)



企画展「大きなこ展」の開催を記念して、鳥取県立博物館では20世紀を代表する前衛作曲家、ジョン・ケージ(1912～92)を紹介するコンサートを開きます。ジョン・ケージはアメリカでも指折りのアマチュアきのこ学者として知られ、自ら山に分け入り、きのこを採取して友人たちに料理をふるまい、イタリアのミラノに住んでいた折には人気クイズ番組で6週間にわたってきのこの名前を言い当て、当時受給していた奨学金より多い6000ドルの賞金を得たというエピソードも残しています。

ケージは「きのこ狩りは多分に偶然性に支配され、不確定な要素の多い気晴らしだ」と語ります。偶然性や不確定性を主題としたケージの音楽は私たちが知っている音楽とは全く異なります。あらかじめ弦に品物をはさんだピアノを用いて演奏する「プリペアド・ピアノ」、携帯ラジオや電気コンロ、じょうろやゴム製のアヒルといったおよそ音楽とは無関係な素材を用いて演奏する一連の作品など、ケージの作品に触れることによって「音楽」に関する私たちの常識は大きく変わり、新しい感性が目覚めます。

演奏者の藤島啓子さんは、これまでもケージの作品を幾度となく手がけ、日本におけるケージの演奏の第一人者です。ピアニストがピアノの前で一音も発さない伝説的な作品「4分33秒」をはじめ、全ての曲が鳥取初演となります。

今年は県立博物館が開館して40周年、そしてケージの生誕100周年にあたります。展覧会とコンサート、博物館でかご(Cage)いっぱいの子のこ音楽をどうぞお楽しみ下さい。

藤島啓子（ふじしま・けいこ）

桐朋学園大学ピアノ科卒業後、パリ、ロンドンに留学。

1976年リナ・サラ・ガロ国際ピアノ・コンクール（イタリア）入賞。1982年の京都市新人芸術家選奨受賞を機に、ジョン・ケージの作品を中心にしたコンサート・シリーズ「藤島啓子ピアノ・フォワード」を開始。1988年より岩崎宇紀とピアノデュオ「if」（イフ）を結成し、20世紀の作品を中心にコンサート活動が続けている。京都市立芸術大学非常勤講師。CDには、20世紀のピアノ作品を収録した「My First Homage」などがある。



中川裕貴（なかがわ・ゆうき）

1986年生まれ。2004年より「N.O.N.」、「swimm」といったバンドにて、cello, electric bass, tape, field-recordingを、2007年から京都の劇団「鳥丸ストロークロック」の音楽を担当。ソロ活動では、celloと電気増幅のためのマイクやエフェクターを使用したライブエレクトロニクス演奏を主に行う。

上中あさみ（かみなか・あさみ）

京都市立芸術大学大学院修了。大学院在学中に独・カールスルーエに留学。大学院賞受賞。仏・トゥールーズの音楽祭に参加。現代曲の新作初演、狂言師・美術家、華道家など異分野とのコラボレーション、子どもたちとの対話を大切に「子どもと大人のためのコンサート」、ワークショップを組み込んだ美術家扇千花との「アトリエコンサート」シリーズを企画、公演。

吹田哲二郎（すいた・てつじろう）

1989年京都市立芸術大学大学院修士課程彫刻専攻修了。1988年より、パソコン、電子機器、センサーなどを用いた彫刻表現、音楽とは異なるサウンドによる表現の研究を始める。1992年より、ソーラーカープロジェクト、映画等の映像音響、多方面の作家との共同制作を多数手掛ける。美術系大学にて、電子デバイスをを用いたインスタレーションからパフォーマンスまで多岐にわたる内容のサウンド・エデュケーションの講義を行う。

「大きなこ展」関連ワークショップ 美術・自然コラボ企画

「音を出そう、ケージ体験」

8月25日(土) 午後2時～
鳥取県立博物館2階講堂

コンサートに先駆けて、ケージの楽譜に基づいて実際に音を出してみるワークショップを開催します。特に音楽的な素養は必要ありません。この機会にあなたもケージの楽曲を演奏してみませんか。

- 講師 藤島啓子氏（ピアニスト）
吹田哲二郎氏（サウンド・アーティスト）
- 対象 小学生以上・一般
- 定員 先着20名（演奏の観覧については申込不要）
- 参加費 無料 ■申込 8月11日(土)～ ※電話のみ

演奏曲目

Music for Marcel Duchamp (1947) マルセル・デュシャンのための音楽
Water Walk (1959) 水の歩行
Inlets (1977) インレツツ

申し込み・お問い合わせ：鳥取県立博物館 美術振興課
電話 0857-26-8045へ